

令和7年度 学校経営計画書

金沢市立工業高等学校

校長 西東 直人

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
- (3) 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力及び社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 「選ばれる学校（中学生）」を目指す。
- (2) 在校生が「本校に入学して良かった」と実感できる学校生活の充実
- (3) 学習指導において、習得した知識や技能（技術）を活用し、表現力の育成に努める
- (4) 生徒指導において、主体的な選択・決定を実行できる判断力の育成に努める
- (5) 落ち着いた学校生活にする勘所～教育の勘所～

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 「選ばれた学校（中学生）」を目指す	① 広報活動の実施を積極的に行う。全教職員との連携を図りながら、学校広報活動の立案と作成などの統括を行い、積極的な広報活動（SNSやメディアの活用）を図る。	【成果指標】 全投稿のうち、投稿インサイトのリーチしたアカウントがshiko_thをフォローしていない人が50%でした。	全投稿のリーチしたアカウントのうち、shiko_thをフォローしていない割合が50%以上を目指す。 A 昨年度より上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	投稿インサイトを集計する。
	② 体験入学・学校説明会・部活動体験のPR活動を積極的に行うとともに内容の充実を図る。	【成果指標】 体験入学・学校説明会・部活動体験を本校への進学につなげる。	入学志願者のうち体験入学・学校説明会・部活動体験参加者の割合 A 50%以上 B 40～50%未満 C 30～40%未満 D 30%未満	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	入学志願者における体験入学・学校説明会・部活動体験の参加者数を確認・集計する。
2 在校生が「本校に入学して良かった」と実感できる学校生活の充実	① いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 A よくはてはまる B まあまああてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	C・Dの割合が30%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	教員アンケートを実施する。
	② 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	6月末時点での実績による。
		【努力指標】 引き続き、高い1年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	6月末時点での実績による。
		【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	部活動の実績による。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	生徒アンケートを実施する。
	③ 応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	高校相模での会場で応援する人数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	Dの場合は、対策を検討する。	当日の調査による。
		【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して A 大変実感できた B 実感できた C あまり実感できなかった D 全く実感できなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	生徒アンケートを実施する。
	④ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に A 主体的に取り組んだ。 B 少し主体的に取り組めた。 C あまり主体的に取り組めなかった。 D 主体的に取り組めなかった。	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	生徒アンケートを実施する。
	⑤ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	参加人数を確認する。
	⑥ 全校応援や式典等の際に、校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	教員アンケートを実施する。
	⑦ ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	資格取得の結果により判断する。
	⑧ 就業体験学習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C、Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	該当生徒へのアンケート
	⑨ 高校生ものづくりコンテスト大会（旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等）及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指標】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会（ブロック大会入賞） C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	後期の実績による。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 学習指導において、習得した知識や技能（技術）を活用し、表現力の育成に努める	① 学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、授業以外での学習の実施を継続的に調査し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 授業以外でも学習に取り組む生徒の割合を50％以上にする。	授業以外でも学習に取り組むことができた。 A 取り組むことができた B 十分とはいえないが取り組むことができた C 少し取り組むことができた D 取り組めなかった	C・Dの割合が50％以上の場合は方法を再検討する。	生徒アンケートを実施する。
	② 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任等が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良に対して、生徒及び保護者に面談等を通じた確認を行い、早期の対応に取り組む。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70％以上の場合は指導方法を再検討する。	教員アンケートを実施する。
4 生徒指導において、主体的な選択・決定を実行できる判断力の育成に努める	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	傘さし運転ゼロ運動時、毎回調査する。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数（半期） A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	9月末に集計する。
	③ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	各科長報告
	④ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができると。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50％未満の場合は、取り組み方を検討する。	生徒アンケートを実施する。
	⑤ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が A 98％以上 B 95％以上98％未満 C 90％以上95％未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による
		【成果指標】 進学決定率	進学決定率が A 98％以上 B 95％以上98％未満 C 90％以上95％未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による
	⑥ 図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信をする。	【成果指数】 一日の平均来館者数	一日当たりの来館人数を平均30人以上を目指す。 A 昨年度、より上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	年間来館者数を集計する。
5 落ち着いた学校生活にする励所～教育の励所～	① 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数（年間）が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	毎日の集計により判断する。
	② 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気に挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80％以上 B 70～79％ C 60～69％ D 60％未満	70％未満の場合改善を検討する	生徒アンケートを実施する。
	③ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B だいたい行うことができた C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	生徒アンケートを実施する。